

## 学会消息

### (国内学会)

○昭和62年度も本会員による活発な研究活動が展開された。届け出があった学会出張を見ても、多岐にわたる研究領域での会員の活動がうかがわれる。哲学宗教から数理科学にいたる広範な領域での学会活動は関西学院大学社会学部の巾を示すものであり、明年度の一層活発な活動を期待したい。

○会員の活動領域を示すため、本年度会合があり、会員が出席した諸学会を列挙しておく。

関西新約聖書学会 日本宗教学会 中世哲学学会 日本フランス語フランス文学会 日本女性学会 日本社会学会 日本都市社会学会 数理社会学会 情報通信学会 日本統計学会 日本新聞学会 組織学会 産業組織心理学会 日本心理学会 日本グループ・ダイナミックス学会 日本応用心理学会 日本教育心理学会 日本宇宙航空環境医学会 日本人間工学会 日本福祉学会 日本老年社会科学会 日本行動療法学会 日本キリスト教社会福祉学会 等である。

### (国際学会、及び国際会議)

○学問の世界は本来国際的なものである。最近、本会員も国際的な場において、活動する方々が増えてきた。また、国際学会や国際会議が我が国において開催される例も多く、会員の今後の活動が望まれる。

アジア・カルヴァン学会 国際ファジィ・システム学会 Pacific ISY Conference-A Planning Meeting for the International Space Year Human Factors Society International Seminar of Flight Safety Foundation 等の会議、学会の大会に本会会員が出席した。

また、これらの国際学会、国内学会の大会、会議における研究発表や講演等の活動については、その演題を含め以下に記す。

### ◇国際航空安全協会

昨年10月26日～29日の間、第40回International Seminar of the Flight Safety Foundation

が東京全日空ホテルで開催された。本学からは杉山貞夫教授が出席し、“Cognitive Framework of Visual Information Related with Flight Operation”と題する講演を行った。

### ◇米国人間工学会

昨年10月19日～22日の間、米国人間工学会(Human Factors Society)第31回大会が米国ニューヨークに於て開催された。本学では杉山貞夫教授が組織計画と設計に関する分科会、宇宙科学分科会において“Human Relations in the Space Station”(宇宙ステーション内作業における人間関係)と題する講演と論評を行った。

### ◇日米 ISY 準備会議

昨年8月19日～21日の間、第1回日米 ISY 準備会議が米国ハワイ州コナに於て開催された。本学から杉山貞夫教授がFacilities for Space分科会委員としてスペースステーション内の人間居住性に関する検討を行い、また“Living and Working Facilities in the Space Station”と題する講演を行った。

### ◇アジア・カルヴァン学会

第1回アジア・カルヴァン学会が1987年10月6日～8日の間、関西学院千刈セミナーハウスにおいて“Calvinistic Heritage in Asia”という主題のもとに開催され、西ドイツ、韓国、台湾、インドネシア、北米、日本から多数の研究者が参加した。

春名純人教授はCalvin's Imago Dei Problem from the Viewpoint of Christian Philosophyと題する研究発表を行い、また、国際カルヴァン学会会長、西ドイツ・ミュンスター大学教授、W. H. Neuser博士の公開講演“Christliche Gemeinde heute in der Sicht Calvins”の通訳をつとめた。

村川満教授は討議に参加し、また、学会の運営に当たった。

森川甫教授はアジアにおける最初の、この国際カルヴァン学会(アジア地域)を、関西学院評議員、日本基督教会東京告白教会牧師、渡辺信夫牧師と共に日本側の発起人となり、代表、渡辺信夫牧師のもとに事務局を担当し、大会を運営した。

## ◇日本社会学会

第60回日本社会学会大会は1987年10月2日・3日の両日、日本大学文理学部において開催された。

本学部から宮原浩二郎専任講師が「社会学史I」のセッションで、「イコノクラストの軌跡：A. グールドナー再考」というタイトルで発表を行った。グールドナー（1920-80）は、産業社会学、機能主義理論、知識人論などで独自の貢献をしたアメリカの社会学者だが、研究分野が多様なためか断片的な評価がなされる場合が多い。発表では、グールドナーの様々な仕事に共通してみられる偶然破壊（あるいは「脱構築」）の傾向を指摘して、その全体像の把握を試みた。発表のあと、アメリカの批判理論の現在の動向や、ヨーロッパの社会理論（ハーバース・フーコー）との接点について討論がなされ、また、アメリカ社会学におけるアウトサイダーの系譜（ヴェブレン・ミルズ・グールドナー）について意見の交換があった。また、「労働者・労働問題II」のセッションでは、萬成博教授、「基礎理論VII」のセッションでは高坂健次教授がそれぞれ司会をつとめた。さらに真鍋一史教授が第2日の「基礎理論」の部会で「Facet Designの理論と技法—消費者行動調査のケース・データを手がかりとして—」と題する研究発表を行った。

## ◇日本心理学会

1987年10月12日～14日の間、東京大学教養学部（駒場キャンパス）において開催された日本心理学会第51回大会で、本学から田中國夫教授、土肥伊都子さん（大学院博士課程後期課程）が出席。10月12日に「男女両性具有に関する研究—Androgyny Scaleと男性役割への志向性—」の発表を土肥伊都さんが行った。

## ◇日本社会心理学会

日本社会心理学会第28回大会が1987年11月22日・23日の両日、日本大学文理学部において開催された。本学部からは真鍋一史教授が第1日「原理」の部会で「社会調査における質問紙作成のシステムティックな方法の開発—Facet Designの理論と技法—」と題する発表を行った。

## ◇数理社会学会

第4回数理社会学会大会は10月4日、東海大学湘南学舎で開催された。

本学部からは、高坂健次教授が「フォーマライゼーションの今日的課題」に関するラウンドテーブル・セミナーの世話人をつとめた。

このラウンドテーブルには十数名が参加し、社会学に登場する理論・概念・命題の明確化にとってフォーマライゼーションが果たす役割と、その戦略について活発で自由な討論を行った。

## ◇日本社会福祉学会

日本社会福祉学会第35回大会は、10月10日・11日の両日、日本福祉大学で開催された。大会テーマは「現代の生活と自立—社会福祉実践の課題」であり、第1日目は自由研究報告、第2日目はシンポジウムがもたれた。

本学からは浅野仁教授が加わる共同研究グループが「老人の主観的幸福観の縦断的研究」を報告し、高田真治教授がシンポジストとして「社会福祉方法論の動向と自立援助の課題」について報告した。

## ◇日本新聞学会

日本新聞学会秋季研究発表会が、1987年9月25日・26日の両日、中央大学（東京都八王子市）等にて開催された。25日は共同通信社大会議室にて、原寿雄氏の「国際通信社の変貌—経済情報分野への進出を中心として—」と題する報告があり、共同通信社におけるテレレート業務等の見学が行われた。

26日は、中央大学において、午前中は個人研究発表があり、本学部からは真鍋一史教授の「日本人論の内容とその機能に関する実証的研究—内容分析と質問紙調査による接近—」の報告がなされた。この研究は米国スタンフォード大学人類学部のHarumi Befu教授との共同研究にもとづくものであり、この研究に対しては関西学院大学の国際共同研究交通費補助が与えられたことを付記しておきたい。午後からは、堀川直義氏の「生活者としての長谷川如是閑」と題する課題報告のほか、ワークショップとして、(1)視聴率、(2)映像とコミュニケーション、(3)90年代ローカリズムとローカル放送—地域自立の

ためのメディアの役割一、(4)放送法制一放制懇  
報告をめぐって一、(5)長谷川如是閑とメディア  
の諸問題、(6)「記者クラブ」制度をめぐって、  
(7)日本人の情報行動、(8)メディア環境一受け  
手・利用者との関係において一、(9)太平洋戦争  
における日米戦意高揚宣伝、(10)生活史とメディ  
ア、(11)日系新聞と日米関係、の11分科会が開か  
れ活発な研究討議が行われた。本学部からは津  
金沢聡広教授(学会理事)、真鍋一史教授、加藤  
春恵子教授、芝田正夫助教授(学会評論編集委  
員)が出席、参加した。ワークショップの題目  
はいずれも、日本新聞学会会員がそれぞれ直面  
する問題領域の一端を示すと共に、会員の関心  
の多様性をも反映していると思われる。

#### ◇日本広告学会

日本広告学会第18回全国大会が1987年10月23  
日、24日の両日、愛知大学豊橋校舎において開  
催された。本学部からは真鍋一史教授が出席  
し、「消費者行動と広告の機能—日米の国際比  
較研究—」というテーマで研究発表を行った。  
この発表は吉田秀雄記念事業財団の1986年度と  
1987年度の2年間にわたる助成研究にもとづく  
ものであることを付記しておきたい。

#### ◇日本出版学会

日本出版学会・秋季研究集会在、1987年12月  
5日、京都市の京都ホテルで開催された。100名  
を越す参加者があり、本学からは、津金沢聡広

教授と芝田正夫助教授が出席した。今回のテー  
マは「変貌する出版流通」で、パネラーは武埜  
修氏(株式会社ニッテン)、斎藤忠司氏(ブック  
マートシステム・エンジニアリング社長、関学  
OB)、永守祐一氏(毎日新聞社会学芸部)の3氏  
であった。郊外型書店の増加や、コンビニエン  
ス・ストア(CVS)での出版物の取り扱い、フ  
ランチャイズシステムによる書店経営など、最  
近の出版流通をめぐる課題について、3名のパ  
ネラーの発言を中心に、活発な討論がなされ  
た。

### その他

このたび故大道安次郎先生追悼文集刊行会  
は、先生の生前のご業績と慈愛あふれるお人柄  
を偲んだ追悼文集『大道安次郎先生を偲ぶ』を  
祥月命日にあたる1月11日に出版した。この追  
悼文集は、生前、大道先生が歩まれた研究生活一  
筋の道を中心に学会・関学・知人・子弟ら50名  
からなる先生への想い出集と告別式の式辞・弔  
辞の三部から構成されている。また刊行会は、  
先生の多くの優れた研究業績のなかから、経済  
学説史として、『スミス経済学の生成と発展』  
(日本評論社)と社会学として、『高田社会学』  
(有斐閣)の復刻版二冊をあわせて刊行した。

執筆者紹介 (掲載順)

ゲアハルト・A・リッター	ミュンヘン大学教授	ギャート・ホーフステッド	リインパーク大学教授
小 関 藤 一 郎	関西学院大学名誉教授	倉 田 和 四 生	社 会 学 部 教 授
山 路 勝 彦	社 会 学 部 教 授	真 鍋 一 史	社 会 学 部 教 授
芝 田 正 夫	社 会 学 部 教 授	浅 野 仁	社 会 学 部 教 授
峯 本 佳 世 子	社 会 学 部 大 学 院 博 士 課 程 前 期 課 程	中 野 秀 一 郎	社 会 学 部 教 授

社会学部研究会々員

会 長	遠 藤 惣 一							
評 議 員	杉 山 貞 夫	牧 正 英	津 金 沢 聡 広					
	村 川 満	高 田 真 治	対 馬 路 人					
会 計 監 査	半 田 一 吉	船 本 弘 毅						
書 記	岡 部 衛 一 郎							
名 誉 会 員	青 山 秀 夫	藤 原 恵	本 出 祐 之					
	小 関 藤 一 郎	蔵 内 数 太	岡 村 重 夫					
	嶋 田 津 矢 子	杉 原 方	清 木 盛 光					
	栃 原 知 雄							(A B C 順)
普 通 会 員	田 中 國 夫	西 尾 朗	定 平 元 四 良					
	萬 成 博	領 家 穰	倉 田 和 四 生					
	武 田 建	佐々木 薫	森 川 甫					
	中 野 秀 一 郎	張 光 夫	中 山 慶 一 郎					
	J.A. ジョイス	宮 田 満 雄	春 名 純 人					
	紺 田 千 登 史	西 山 美 瑳 子	安 田 三 郎					
	真 鍋 一 史	加 藤 春 恵 子	山 路 勝 彦					
	山 本 剛 郎	鳥 越 皓 之	荒 川 義 子					
	安 藤 文 四 郎	浅 野 仁	高 坂 健 次					
	芝 田 正 夫	芝 野 松 次 郎	立 木 茂 雄					
	宮 原 浩 二 郎							

## 関西学院大学社会学部研究会会則

- 第 1 条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。
- 第 2 条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の交流を計ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行う。
- 1 機関紙「関西学院大学社会学部紀要」の発行。
  - 2 研究会および講演会の開催。
  - 3 研究叢書の刊行。
  - 4 その他本会の必要と認める事業。
- 第 4 条 本会の会員は次の3種とする。
- 1 名誉会員 本会の特に推薦するもの。
  - 2 普通会員 本会社会学部専任の教授、助教授、講師および助手。
  - 3 賛助会員 以上の外申込のあったもの。
- 第 5 条 普通会員は年額 19,200円、賛助会員は年額 10,000円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。
- 第 6 条 本会員および本学社会学部大学院生・学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の講読費は昭和56年度入学生より年額 1,600円とする。
- 第 7 条 本会に次の役員をおく。
- 1 会長（1名）は、社会学部長をもってあてる。
  - 2 評議員（6名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
  - 3 編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。
  - 4 会計監査（2名）は、普通会員の中から互選する。
  - 5 書記は、社会学部事務長に委嘱する。
- 第 8 条 本会役員任期は2年とする。重任を妨げない。
- 第 9 条 本会会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終る。予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第 10 条 総会は年1回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。
- 第 11 条 本会は事務所を本学社会学部におく。
- 第 12 条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

＜編集後記＞

本年度もいよいよ終わりに近付いてきた。大体、年に二回の紀要の発行という原則は守られ、卒業生におわたしする本号も無事完成できたことは編集者として喜びにたえない。他大学の研究者からも、様々な問い合わせを受けるまでに至ったのは、この紀要の社会的評価が高まったものと考えられる。今や、社会学部の内輪の雑誌としてではなく、社会に公開する雑誌として、われわれはその編集責任を深く感じるものである。ご投稿いただいた諸先生方に感謝するとともに、卒業式でこの紀要を手にする卒業生諸君に対しては、社会と科学の研究とが現代ほど接近している時代はなかったが故に、益々の勉強を切に祈るものである。

(杉山)

1988年3月15日 印刷

1988年3月20日 発行

編集発行人 遠藤惣一

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)<sup>(53)</sup>6111(代表)  
(内線) 4212

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒660 尼崎市北大物町16-55

電話 (06)481-0707(代)

**KWANSEI GAKUIN**

**SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES**

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

---

No. 56

March 1988

---

---

The Study Association of Sociology Department

**KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**

Nishinomiya, Japan

---